令和５年度　徳島中学校　総括評価表

	自己評価						学校関係者評価	
	重点課題	重点目標	活動計画	評価指数	総合評定	評価指数の達成度および所見	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の方策
学校経営	地域とともにある学校として、教育活動の充実を図るとともに、生徒や教職員にとって、自己実現のできる学校をめざす。	１．保護者や地域の人々の意見や要望を大切にした学校運営をめざす。	１．学年だより・ホームページ等による積極的な情報発信とともに、現状に則した学校行事の工夫やラインネット等の積極的活用で、身近で開かれた学校づくりへの理解と連携を深める。	１．学校から発信する各種たよりや文書等により、保護者に対して十分な情報を伝えることができていると思う保護者が、90%以上いる。　（アンケート調査）	B	○ 今年度は新型コロナウイルス感染症が5類相当となり，学校行事等について保護者公開の機会が増加した。アンケートの結果、今後公開行事に参加の希望がある保護者は93.0%と，昨年度から2.8ポイント増加し，昨年度と同様に9割を超えた。「コロナ明け」の期待感からか、本校の教育活動への関心がさらに高まったと思われる。「コロナ後」の持続可能な新しい教育活動の姿について柔軟に検討をすすめ,保護者や地域に向けた学校教育活動の様子の情報発信や公開方法などを充実させていきたい。 ○ 学校からの情報発信については,昨年度の88.1%から4.4ポイントの増加で92.5%の保護者が肯定的に捉えており,目標の90%以上を達成することができた。修学旅行の安否情報などきめ細かな情報発信が，保護者の信頼感を得ることにつながった。 ○ 生徒は楽しい学校生活を送れている93.5%が回答した。教職員も協力して楽しく仕事ができたと100%が回答し，目標を達成することができた。	○ オープンスクールや参観授業の回数を増やし、子供たちの様子を見る機会を増やしてほしい。 ○ ホームページの使いやすさと内容の充実をさらに図ってほしい。 ○ 情報提供をこまめにしてくだされば助かる。 ○ 保護者や地域の人々の意見や要望を大切にした学校運営などの学校経営が十分にできている。 ○ 教科指導が充実している。教育の在り方が変化している。ICTに依存するのではなく、タブレット等の有効活用を推進していく時代であると感じる。 ○ 人権教育で、自尊感情を育む教育が実践できている。 ○ 道徳教育が充実しており、人として、ともによりよく生きていこうとする生徒を育成できている。 ○ 挨拶や服装等について指導できている。 ○ 自分自身の健康に対する関心を高める保健指導ができている。 ○ 図書室の大切さについて認識を深め、有効活用をさらに促進してほしい。 ○ 避難訓練等の防災対策はしっかりできている。生徒の防災意識も高い。子供たちが必ず遭遇するであろう南海トラフ等の大型地震災害に備えて、さらなる防災意識の向上と、具体的な想定に基づく様々なバリエーションの訓練の実施について検討すべき。「想定」が最も重要。 ○ 命を守るためにも交通ルールについての繰り返しの指導が必要。特に登下校時の自転車のマナーについて指導を徹底してほしい。 ○ 全ての教育活動を通して、一人一人の個性の伸張を図り、自分の将来に対して夢や希望を持ち、目標に向かって努力する生徒を育成する進路指導が十分にできている。 ○ 特別支援教育において、個々の生徒に対する理解を深め、支援の改善を図る指導ができている。 ○ いつも先生方の御尽力に頭が下がる。 ○ 親身に子供と保護者に対応していただいている。いつも思いやりある言動で助かっている。 ○ 生徒は態度も良く、学力も高く、学校全体の雰囲気・風通しの良い学校である。先生方の努力や配慮と思う。	○ 生徒の健康や安全を最優先としつつ、地域や保護者に開かれ持続可能な教育活動の実現とその充実に向けてきめ細かく検討していく。 ○ 保護者や地域への情報発信の方法や内容をさらに検討していきたい。特に保護者からの要望がみられた学校ホームページの改善と充実を図る。また、新しく導入する「れんらくアプリ」等を活用した迅速でよりきめ細かな情報発信を工夫し、確実な情報提供ができるよう工夫する。 ○ 職場環境においては、さらに情報や課題の共有をしっかりと行い、連携・協働体制の整った「チーム学校体制」を構築していきたい。
		２．生徒や教職員が自他の存在を認め合い、各自が目標を持ちそれに向けて実践することで学校の活性化を図る。	２．生徒相互・教職員相互で協力し合い、各自の目標が達成できるよう、主体的に活躍できる場を設定する。	２．学校において自分の活躍の場があり、仲間と協力できていると感じている生徒・教職員の割合を100%に近づける。　（アンケート調査）				
教科指導	生徒一人一人が「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践をめざす。	１．教科部会や研修を活用し、生徒の知識及び技能の習得を徹底する。	１．教科部会で「各教科に関する個別の知識・技能を身につけさせるための手立て」を検討し、実践する。	１．「授業が分かる」生徒が80%以上、知識・技能を身につけさせる手立てを行った教職員の割合を100%に近づける。　（アンケート調査）	B	○「知識・技能を身につけさせる手だてを行った教職員」100%。「生徒を『認め育てる』肯定的な学習指導を行った教職員」100%、「生徒の思考を深めるための手だてを行った教職員」92.6%、「話し合い活動などを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた生徒」86.8%と4項目で目標を達成できた。しかし、「授業が分かる生徒」79.7%、「学習課題に対して、主体的に取り組めた生徒」71.2%と2項目で目標を達成できなかった。 他には、家庭学習平均時間1･2年（1時間52分（昨年度比＋11分）,3年 2時間20分（−16分）,「タブレットを授業等で利用している教職員」74%(+5.2%)であった。 今年度から取り組んでいるポジティブ行動支援(PBS)によって、生徒を「認め育てる」肯定的な学習指導を行うことで、一定の効果があったと思われる。	○ 教科指導が充実している。教育の在り方が変化している。ICTに依存するのではなく、タブレット等の有効活用を推進していく時代であると感じる。 ○ 人権教育で、自尊感情を育む教育が実践できている。 ○ 道徳教育が充実しており、人として、ともによりよく生きていこうとする生徒を育成できている。 ○ 挨拶や服装等について指導できている。 ○ 自分自身の健康に対する関心を高める保健指導ができている。 ○ 図書室の大切さについて認識を深め、有効活用をさらに促進してほしい。 ○ 避難訓練等の防災対策はしっかりできている。生徒の防災意識も高い。子供たちが必ず遭遇するであろう南海トラフ等の大型地震災害に備えて、さらなる防災意識の向上と、具体的な想定に基づく様々なバリエーションの訓練の実施について検討すべき。「想定」が最も重要。 ○ 命を守るためにも交通ルールについての繰り返しの指導が必要。特に登下校時の自転車のマナーについて指導を徹底してほしい。 ○ 全ての教育活動を通して、一人一人の個性の伸張を図り、自分の将来に対して夢や希望を持ち、目標に向かって努力する生徒を育成する進路指導が十分にできている。 ○ 特別支援教育において、個々の生徒に対する理解を深め、支援の改善を図る指導ができている。 ○ いつも先生方の御尽力に頭が下がる。 ○ 親身に子供と保護者に対応していただいている。いつも思いやりある言動で助かっている。 ○ 生徒は態度も良く、学力も高く、学校全体の雰囲気・風通しの良い学校である。先生方の努力や配慮と思う。	○ 今年度の教科指導の重点課題は「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を実践するために、「デジタル教材とアナログ教材を効果的に使用すること」と「効果的なタブレット活用方法を校内で共有すること」である。タブレットの不具合等で課題も多いが、教科部会や校内研修で指導方法や技術を共有することで、授業でのタブレット使用頻度は年々増加している。今後もすべての教職員が教科の特性に合わせた効果的な使用法を実践し、生徒の資質・能力の育成に努めていきたい。 また、生徒の「学びに向かう力、人間性等」を授業内でどのように育成、評価していくかが課題であり、教科部会や校内研修で共有し生徒に還元していきたい。
		２．教科部会や研修を活用し、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する。	２．教科部会で「多様な学びの場の効果的な設定」や「生徒の思考を深めるための手立て」を検討し、実践する。	２．「話し合い活動などを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」生徒が80%以上、生徒の思考を深めるための手立てを行った教職員が90%以上いる。　（アンケート調査）				
		３．PBS（ポジティブな行動支援）を行い生徒の主体的に学習に取り組む態度を育成する。	３．PBS（ポジティブな行動支援）を行い、生徒を「認め育てる」積極的・肯定的な学習指導を実践する。	３．「学習課題に対して、主体的に取り組めた」生徒が80%以上、「生徒を『認め育てる』肯定的な学習指導」を行った教職員が90%以上いる。　（アンケート調査）				
人権教育	自他のよさを認め合い、すべての生徒の自立と自己実現のできる人権教育をめざす。	1．さまざまな人権問題の解決に向けて主体的な行動力を育成する。 2．自分を大切にし、自尊感情を育てることで、前向きに生きる態度を養う。	年間指導計画を見直し、授業や体験的活動および行事を充実させる。	１．自分が大切にされていると感じている生徒が80%以上いる。 ２．相手を尊重した言動ができていると感じている生徒が80%以上いる。 （アンケート調査）	B	○ 自分が大切にされていると感じている生徒は84.2%，相手を尊重した言動ができている生徒は85.9%と目標を達成できた。ここ5年間は安定して目標達成できている。今年度も新型コロナウイルス感染症感染予防のため，人権作文意見発表会などの取組を一部リモートで行わざるを得ない状況ではあったが，日 々の授業や学校生活の中で生徒とのコミュニケーションを図ったり，「認め育てる」肯定的な指導を行ったりするなど，学校全体で地道に努力を重ねてきた。ただ，コロナ感染症の流行以前と比べると，不登校生徒の割合が増えており，アンケート結果の数値には表れない部分として，自分に自信がもてなかったり，周囲との関係に悩んだりしている生徒が少なからずいると考えられる。引き続き，人権意識の向上に向け，努力していくことが大切である。		○ 人権教育における生徒の具体的な実践活動については，まだまだ十分とは言えないのが現状である。また，道徳の教科化等により，本校では人権学習に取り組む時間の確保が難しい状況となっている。しかし，生徒の具体的な実践活動や，自尊感情の育成をめざし，人権教育にかける時間の確保や取組の内容等の工夫及び改善に努めなければならない。また，引き続き日々の授業や学校生活の中で生徒とのコミュニケーションや「認め育てる」肯定的な指導を行うことで，共に人権意識の向上に努めていくことが必要である。
道徳教育	豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	人として、ともによりよく生きていこうとする生徒を育成する。	「新しい道徳」を活用し、指導方法や授業形態の工夫改善を図る。	道徳の授業で学んだことを生活に生かしていると思う生徒が80%以上いる。 （アンケート調査）	B	○ 道徳の授業で，友達の意見を聞いたり，議論したりして，自分の考えを深めることができたと感じている生徒は83.5%と目標指数を上回る結果となった。これは各学年で協力して道徳の授業に取り組み続けた成果だと思われる。		○ コロナ禍で実施できなかった外部講師を招いた校内研修の機会を設けるなど教職員の授業力向上に努め，主体的・対話的で深い学びをめざした「考え，議論する道徳の授業」という面を重視していきたい。また、命の大切さや社会のルールを守ることなど，学校の課題に即した授業を重点的に行い、生活に生かしたい。
進路指導	自らの生き方を考え、主体的に進路選択をすることができる生徒を育成するための計画的・組織的な進路指導をめざす。	全ての教育活動を通して、一人一人の個性の伸長を図り、自分の将来に対して夢や希望を持ち、目標に向かって努力を続ける生徒を育成する。	１、「自分の適性や特徴を理解し、将来の目標を考えることができたか」（全学年で実施） ２、「自分の目標や夢に向かって、継続的に努力を重ねることができたか」（全学年で実施） ３、「自分の将来を想像し、中学卒業後の進路を考えることができたか」（全学年で実施）	進路選択のための十分な情報収集を行い、将来就きたい職業のイメージを持ち、夢や希望を抱くことができた生徒が７０％以上いる。 （アンケート調査）	3:F15B13	○ 進路指導計画を3観点にまとめ，全学年で同一調査を実施することにより，系統的で継続的な指導の成果や，生徒の傾向について実態を把握することができた。アンケートでは、各項目において，3年時は1年時と比較すると肯定的な意見が増加する傾向にある。進路指導においては，各学年の特徴や目標に沿った狙いに向けた取り組みが行われていると言える。 ○ 自分の適性や特徴を理解し、将来の目標を考えることができた生徒の割合は、全体で64．5%だった。3年生では、69．2%でも目標値に達した。		○ 系統的な調査になって3年目となり，データの経年変化を比較して分析することで，各学年の傾向が把握できた。中学生の段階では明確な目標（修学・就労）を持っていることは少ないと思われるが，学年が上がるにつれ，目標に対して具体的に思考できるようになっている。進路選択にあたり，自身の個性や趣味・思考を加味しながら，自己選択できるよう，全体の意識の底上げを図っていきたい。。
生徒指導	生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立をめざす。 いじめの未然防止や早期発見・早期解決に向け取り組む。	１．集団のルールを守る事の大切さを指導徹底する。	１．生徒会を中心に服装検査等を実施する。	１．正しい服装ができる生徒を100%に近づける。　（アンケート調査）	B	○ 今年度は「元気な挨拶，服装を正す」を生徒指導の重点目標として取り組み，挨拶ができていると答えた生徒が85.3%と概ね満足できる状況である。服装をきちんとできているかという問いに対しては，生徒，保護者，教職員とも凡ほ90%以上の高い割合であった。生徒たちの規範意識が高く，落ち着いた学校生活を送れていることが分かる。 ○ 今年度は，服装規定の見直しを生徒会が中心となって行い、靴下と夏服の中着についてルールに変更があったが，円滑に運用されている。毎学期，学校生活に関するアンケートを行い，いじめの積極的な把握に努め，適切に対応出来るよう取り組めている。		○ 挨拶について，生徒と保護者・教職員で，「できている」という認識に少し差があることがわかった。今後，現在の取り組みを継続し，あらゆる場面で挨拶の大切さや挨拶の仕方について指導していく。 ○ 適正な校則の運用・見直しが求められている中で，現在の服装についてのルール見直しなどを適宜検討していく必要がある。日常生活の中の些細なトラブルも見逃さず全ての教職員で全ての生徒を見守っていく。
		２．あいさつの習慣を定着させる。	２．教職員や生徒会活動によるあいさつ運動を実践する。	２．学校や家庭できちんとあいさつができる生徒を100%に近づける。　（アンケート調査）				
		３．いじめは、生命や人権に関わる絶対に許されない行為であることを認識させる。	３．「学校生活に関する調査」を、学期に一度実施する。	３．学校生活が楽しいと答える生徒が７０％以上いる。　（アンケート調査）				
安全指導	生徒自らの生命や安全確保に対する意識の高揚をめざす。	１．交通ルール・マナーを徹底させる。	１．生徒会を中心に交通ルールの遵守や交通マナー向上を呼びかけるとともに、教職員にも街頭指導を行う。	１．交通ルールが守れていると答える生徒を100%に近づける。　（アンケート調査）	B	○ 交通ルールやマナーを守って通学できていると回答した生徒は95．7%であった。しかし，保護者の回答では87.9%と生徒回答より低く，中学生の意識と実態にズレが生じていると考えられる。また，保護者や教員からの記述欄の中には「自転車通学のマナーが悪い。」「並進やスピードの出し過ぎが危ない。」という意見があった。 ○ 災害時の避難方法を把握している生徒が84．7%，災害時のことについて，家族と話ができている保護者が81%であった。2回行った避難訓練はスムーズに避難することができ，生徒たちも学校での避難方法を把握することができた。	○ 生徒は態度も良く、学力も高く、学校全体の雰囲気・風通しの良い学校である。先生方の努力や配慮と思う。	○ 交通ルール・マナーは自分のため，他の人のために必ず守る必要がある。生徒も保護者も「100%できている」という評価ができるように，日頃から交通安全に関する指導を行った上で，各学期の始めや終わりの全校集会での重点的な指導を行っていく。 　また，災害発生時に防災・減災ができるように，災害時の対処を生徒に理解させ，家庭と連携させていくことが必要である。
		２．自然災害や不審者出没などの緊急事態発生時、適切な行動がとれるように指導する。	２．自然災害や不審者対応についての安全指導と避難訓練を実施する。	２．避難訓練が状況に合わせてスムーズに行えるようにする。　（実施調査）				
保健指導	健康の大切さを理解し、自分の健康管理ができることをめざす。	自分自身の健康に対する関心を高める。	自己の健康管理ができる生活習慣を身につけるよう、継続的に指導する。	１．健康の大切さについて考えることができる生徒を80%以上にする。 ２．毎日、朝食を食べている生徒を90%以上にする。　（アンケート調査）	B	○ 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し，今年度は感染症対策も変化していく中で，改めて自分の健康について考え，行動する機会も多かった。朝食摂取率については89.5%であり,目標値は達成しているが，昨年度よりも朝食摂取率が下がっており，生徒の意識の低下が見られた。朝食の重要性について意識できるよう取組を続ける。 ○「自分のことが好きですか」の質問については，62.8%であった。中学生が感じる，不安感や思春期の悩みもあると考えられる。一人ひとりが自分を大切できる意識を高めるために，教職員が連携して心の健康について考えていくことが必要である。		○ 健康に関する興味・関心，知識・理解の継続的な指導は，生徒の将来の健康の保持増進，そして行動化・習慣化につなげるための重要な指針となる。今後も生徒が興味・関心を持つ啓発資料や教材を作成するとともに，指導の機会を工夫し，家庭・地域と連携した健康教育を充実させたい。
図書館教育	読書環境を整え、読書習慣の促進と定着をめざす。	１．図書室を積極的に活用させる。	１．図書委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。	図書室を利用したことのある生徒が80%以上になる。　（アンケート調査）	B	○ 図書室を利用したと回答した生徒は28.4%とかなり低い数値となった。図書室の環境を整え，委員会の活動を通してを利用者数を増やすことが課題として考えられる。 ○ 学級文庫を利用したと答えた生徒は73.9%と，昨年に続き目標に近い数値となっている。学級文庫を利用した生徒は70%を超えているため，委員会での学級文庫入れ替えの活動は今後も続けていきたい。		○ 図書室の利用は少ないが，学級文庫を利用する生徒は多いというのが現状である。現在委員会で行っている学級文庫の入れ替えは効果的であり，今後も引き続き行っていく。次年度以降は，図書室の利用者を増やすために，図書室を生徒が日常的に使える空間にしなければならない。新刊図書紹介の掲示などの委員会での活動を工夫し，図書室に足を運んでもらえるような環境整備が必要である。
		２．学級文庫を充実させる。	２．図書委員による学級文庫の管理と設営を行う。	学級文庫を利用した生徒が80%以上になる。　（アンケート評価）				
環境教育	環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	ゴミが落ちていない美しい環境づくりに努める。	整美委員が定期的に清掃チェックを実施し、美しい環境を保てるようにする。	美しい環境を自ら作ろうとした生徒の割合を100%に近づける。 （アンケート調査）	B	○ 意欲的に清掃に取り組めた生徒，ゴミの分別をしようとしている生徒などの割合が増加している。徳島中学校を美しくしていこうとする意識付けができていると考える。		○ 整美委員会，福祉委員会が中心となり校内美化，美しい環境作りをさらに意識付けしていくとともに、啓発活動にも積極的に取り組む。
特別支援教育	生徒一人ひとりの理解に努め適切な支援をめざす。	１．校内支援委員会を開催し、生徒理解に努める。	１．学年会を中心に各学年の支援を必要とする生徒の把握に努め、校内支援委員会を通じて共通理解を図る。	１．全教職員が個々の生徒の特性を把握している。　（アンケート調査）	B	○ 職員会や学年会の場で，「支援が必要」と考えられる生徒について話し合い等を行い，共通理解を図ってきたことが，生徒との関わる上で有効だったと答えた教職員は，100%であった。どの学年も生徒理解をより深めるために，個別の支援について講師を招き研修を行ったり，話し合いの場を継続して設けたりできた中で，教職員の間で共通理解が図れ、その結果、それぞれの生徒に応じた支援を多くの教職員が実践でき、生徒の成長の手応えを感じることができたからではないかと考える。 ○ 特別な支援が必要な生徒に対して，個に応じた適切な支援が行えたと思う教職員は96.3%であった。「ポジティブな行動支援」について校内研修を行ったことで、支援が必要な生徒や，困り感を感じている生徒にどのように対応すべきか悩んでいた教職員が，具体的な声かけや関わり方を学び，実践できたためではないかと考える。		○ 生徒や保護者のニーズが多様化し、個に応じた適切な支援も多様化しているため，今後もそれぞれに対応できるよう，担任だけではなく、個々の実態に応じて学年や学校全体で支援の方法を考えていく必要がある。 ○ 不登校傾向の生徒も多く，少しでも学校で生徒が困り感を感じずに生活できるよう、積極的にアプローチ方法を研究していかなければならない。そのため、校内特別支援委員会やケース会議、巡回相談員やスクールカウンセラーのアドバイスを頂きながら、専門機関と協力し、生徒や保護者の心に寄り添った、よりよい支援ができるよう、引き続き教職員の意識を高めていきたい。
		２．個々の生徒に対する理解を深め、支援の改善を図る。	２．関係機関や家庭と連携しながら、適宜ケース会議を開き、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成に努める。	２．教育相談等の記録を残し、個々のケースに応じた適切な支援が計画的に行われる。				
		３．全教職員が特別支援教育に関する理解を深める。	３．特別支援教育に関する研修（校内研修や総合教育センターでの研修、その他講演など）に参加し、理解を深める。	３．全教職員が特別支援教育について正しく理解している。（アンケート調査）				

評定の基準　A:十分達成できた　B:おおむね達成できた　C:達成できなかった